



虹を追ふひと

The man following the rainbow



〈第1部〉シンポジウム

萩原朔太郎をいま、読み直す

松浦寿輝

詩人・作家・フランス文学者

星野太

美学者・金沢美術工芸大学講師

高橋睦郎

詩人

〈第2部〉リーディングシアター

ただ港だけが故郷だふるさと（萩原朔太郎「天に怒る」より）

萩原朔美

手島実優

斉藤佑介

柳沢三千代

堀内正美

演出家

栗原飛宇馬

（文学研究者）

演出助手

「ああ、お前は夢を夢みる人だ、所詮、甲斐のないことを知りながら虹を追って行く人だ。」
萩原朔太郎「虹を追ふひと」より

2018年5月12日(土) 14:00開演 (開場 13:30) 昌賢学園まえばしホール 小ホール

(前橋市民文化会館) 群馬県前橋市南町三丁目62番1号

チケット / 500円 (販売中) 煥乎堂、昌賢学園まえばし文化ホール、前橋文学館

主催：前橋国際実行委員会 共催：萩原朔太郎研究会、前橋市、(公財)前橋市まえばし公社、前橋文学館友の会
後援：前橋新聞社前橋支局、NHK前橋放送局、FM GUNMA、共同通信社前橋支局、群馬テレビ、産経新聞社前橋支局、JCOM群馬、群馬通商社前橋支局、上毛新聞社、群馬経済新聞、前橋新聞社前橋支局、前橋文化センター、前橋観光コンベンション協会、まえばしCTTYエフエム、前橋市工業団地、前橋新聞社前橋支局
協賛：群馬鉄人のクラブ、群馬ベンチクラブ
お問い合わせ：前橋国際実行委員会 (萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館内) 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町3丁目12-10 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

（第1部）シンポジウム
萩原朔太郎をいま、読み直す



たかはし むつお
高橋睦郎

1937年福岡県生まれ。詩人。1959年第一詩集『ミノ・あたしの雄牛』刊行。1982年『王国の構造』で第20回藤村記念賞、1988年『兎の窟』(1987年刊)で第18回高見順賞、1993年『旅の絵』(1992年刊)で第11回現代詩花結賞、1996年『姉の島』(1995年刊)で第11回詩歌文学館賞、2010年『永遠まで』(2009年刊)で第28回現代詩人賞。ほかに、『和言華語一詩人が読むラテン文学』(2013年)で第5回鮎川信夫賞詩論集部門受賞。句歌集『種古飲食』(1987年)で第39回読売文学賞受賞、句集『十年』(2016年)で蛇笏賞・俳句四季大賞。2017年文化功労者顕彰、日本芸術院会員選出。近著に『在りし、存らまほしき三島由紀夫』(2016年)、『詩人が読む古典ギリシャ和訓歌心』(2017年)。今夏、新詩集『つい昨日のこと・私のギリシア』刊行予定。詩のみならず、短歌、俳句、小説、能、狂言、浄瑠璃、オペラ台本ほか多方面で芸術活動を続けている。



ほし の ふとし
星野 太

1983年生まれ。金沢美術工芸大学講師。専攻は美学、表象文化論。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。著書に『崇高の修辭学』(月曜社、2017年)、共編著に『The Sublime and the Uncanny』(UTC、2016年)、共著に『コンテンポラリー・アート・セオリー』(イオスアートブックス、2013年)、訳書にカンタン・メイヤー『有限性の後で』(千葉雅也・大橋完太郎との共訳、人文書院、2016年)などがある。



まつうら ひさき
松浦寿輝

1954年東京都生まれ。詩人、作家。東京大学名誉教授(フランス文学・表象文化論)。萩原朔太郎賞選考委員。1982年第一詩集『ウサギのダンス』を刊行。1988年詩集『冬の本』で第18回高見順賞、2009年『吃水都市』で第17回萩原朔太郎賞、2014年『afterward』で第5回鮎川信夫賞。小説では、1996年に第一小説集『ものたはむれ』を刊行。2000年『花高し』で第123回芥川龍之介賞、2005年『半島』で第56回読売文学賞、『あやめ 輝 ひかがみ』で第9回山本健平賞、2017年『名譽と恍惚』で第53回谷崎潤一郎賞、第27回ドゥマゴ文学賞。評論では、1995年『エッフェル塔試論』で第5回吉田秀和賞、1996年『折口信夫論』で第9回三島由紀夫賞、2000年『知の庭園——一九世紀パリの空間装置』で第50回芸術選奨文部大臣賞、2015年『明治の表象空間』で第56回毎日芸術賞特別賞。2016年12月より萩原朔太郎研究会会長。

映画監督堀内甲の長男として東京都世田谷区に生まれる。学生時代に千田是也、清水邦夫、嵯峨幸雄に師事、劇作・演出を学ぶが、在学中にTBSのプロデューサーにスカウトされ、1973年、夏目漱石の『門』と『それから』を早坂暁が脚色した金曜ドラマ『わが愛』で俳優デビュー。その後、実相寺昭雄監督と出会い、個性的な役柄を次々と演じるようになる。若い頃はナイーブな青年役に持ち味を発揮していたが、以降、エキセントリックな黒幕的役柄を中心に、特撮作品や時代劇にも多く出演。

大阪府生まれ。声優・ナレーター。青二プロダクション所属。日本大学芸術学部演劇学科卒。在学中に如月小春主宰の劇団「NOISE」に旗揚げより参加、座長の進言で声優の道へ。アニメでは『それいけ!アンパンマン』カレーパンマン役、『機動戦士ガンダムSEED』エリカ・シモンズ役、上田トシコ原作『ファイテンさん』ファイテン役、ちばてつや原作『風のように』語りほか。テレビでは『歴史発見城下町へ行こう!』(BS朝日)、『名作を旅してみれば』(BSフジ)ほか多数。朗読ユニット「はんなりラヂオ」主宰、『WAKU』プロデュースで舞台の活動も続けている。

1981年生まれ。静岡県出身。グリーンメディア所属。特技:スポーツ(アイスホッケー:団体出場、テニス:全国大会出場) <芸歴>〔ドラマ〕CX『プライド』(2004年)でドラマデビュー以降出演を重ね、昨年(2017年)はテレビ朝日『刑事7人』、CX『警視庁いきもの係』等、1年間でドラマ7本に出演。〔舞台〕WAKUプロデュース定期公演(赤坂RED / THEATER)では毎回のレギュラー出演。〔映画〕藤原知之監督『ボクはボク、クジラはクジラで、泳いでる』本年(2018年秋)公開予定。

1997年生まれ。前橋市出身・在住。地元前橋で開催されたワークショップをきっかけに、10歳から芝居を始める。中学進学と同時に地元のアマチュア劇団に入団し、舞台に出演。フリーランスで映画、CM、PVなどに出演し、地元群馬から活動を広げている。映画は『カラコエの花』(2016年)、『赤色彗星偵察部』ヒロイン役(2016年)ほか。舞台は前橋文学館リーディングシアター『夜汽車の人』朔太郎の妹役(2017年)、陸奥舞台プロデュース『寿歌』キョウコ役(2018年)ほか。

1946年東京都生まれ。映像作家、エッセイスト。多摩美術大学名誉教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室『天井桟敷』の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。1975年、月刊誌『ピククリハウス』をバルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『演劇実験室・天井桟敷の人々』(2000年)、『毎日が冒険』(2002年)、『死んだら何を書いてもいいわ』(2008年)、『劇的な人生こそ真実』(2010年)ほか多数。2016年4月より前橋文学館館長。

ほりうち まさみ
堀内正美



やなぎさわ みちよ
柳沢三千代



さいとう ゆうすけ
斉藤佑介



てしま みゆ
手島実優



はぎわら さくみ
萩原朔美



（第2部）リーディングシアター
ただ港だけが故郷だ